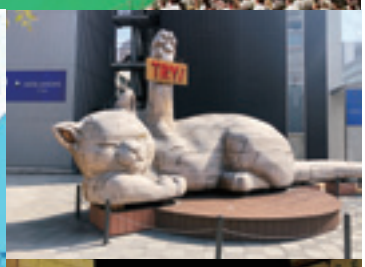
OISA NEWS

OITA INFORMATION SERVICE INDUSTRY ASSOCIATION

2020.3
76

発　行：大分県情報サービス産業協会
会長　森　秀文
http://www.oisa.jp
編　集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
（大銀コンピュータサービス㈱内）
TEL（097）537-5918
FAX（097）534-4545
印　刷：佐伯印刷株式会社

大分県情報サービス産業協会



CONTENTS

2020年新年例会開催 ―― 2
新任顧問・新入会員紹介・新任者紹介
第31回OISA技術交流会開催 ―― 3
特別講演会　中西麻耶氏 ―― 4
第26回OISA研修の実施 ―― 6
第25回OISAボウリング大会開催
第28回サウンズコンテスト ―― 7
2019年度 第1回・第2回OISA視察研修 ―― 8
社会貢献活動参加

2020年
大分県情報サービス産業協会　新年例会開催

2019年度の新年例会が、１月15日（水）に大分市のソレイユにて、ご来賓並びに会員企業多数出席の中、盛大に開催されました。

最初に森秀文会長より新年の挨拶がありました。

引き続き、大分市副市長・久渡晃様、九州経済産業局情報政策課課長・平川伸子様からのご挨拶を頂戴し、特別講演へと移りました。

本年は、中西麻耶様から「あきらめない心～東京パラリンピックに向けて～」という演題でご講演をいただきました。

森　秀文 会長

大分市副市長　久渡　晃様

九州経済産業局情報政策課 課長　平川伸子様

乾杯　大分県商工観光労働部 理事　工藤典幸様

新　顧　問　紹　介　挨　拶

新顧問　中島（なかしま）　誠（まこと）

【所属・役職】
大分大学理工学部・教授

【略　歴】
1965年　岡山県生まれ
1989年　財団法人　日本情報処理開発協会 入職
1993年　大分大学工学部着任
2013年　大分大学教授（現在に至る）

【趣　味】　読書、ウォーキング

【ご挨拶】
昨年12月より顧問を拝命いたしました。専門は情報工学で、ユーザインタフェースデザインや情報の視覚化に関する研究を行っています。また、主体的学習の場の構築といった大学教育の改善にも取り組んでいます。微力ながら、県内の情報サービス産業の振興と産学連携の推進に寄与できるよう努力して参りたいと存じます。

新入会員紹介

株式会社ディック学園
代表取締役社長　赤嶺（あかみね）　昭（あきら）

【事業内容】
HP制作、レゴプログラミング教室、
家庭教師、学習塾、PC教室、通信制サポート校

【所在地】大分市末広町2丁目10番24号　DIC学園ビル7F
【ＴＥＬ】097-537-1730　　ＦＡＸ：097-537-3374

株式会社プロディジ
代表取締役　山嵜（やまさき）　吾郎（ごろう）

【事業内容】
ソフトウェア開発及び販売／
システム設計及びプログラム受託

【所在地】（ブランチ）大分市寿町11-2　第3大成ビル202号室
【E-mail】oita@prodigy-inc.co.jp

新　任　者　紹　介

〔広報委員会〕株式会社ディック学園　部長　坂本　裕規

第31回「OISA技術交流会」開催

日 時：2019年12月11日（水）　13：30～17：00
場 所：大分商工会議所ビル ６Ｆ大ホール

OISA技術交流会は、大分県の情報サービス関連技術の向上と発展、さらなる振興を目的に毎年開催されています。第１部は、業界の最新技術動向についての研究成果やノウハウを持つ講師による講演会、第２部は、会員各社の中堅・若手技術者が集った「技術研究会」の成果発表および大分大学から「研究シーズ」の紹介が行われました。今回は21団体128名の参加をいただき、活況を呈しました。

伊沢　亮一 氏

■第１部 講演会

国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）サイバーセキュリティ研究所の伊沢亮一氏を迎え、「大規模観測から見るサイバー攻撃の動向－狙われ続けるIoT機器－」と題して、サイバー攻撃観測、観測をもとに実施したインシデントハンドリング、過去の感染事例および今後の問題およびセキュリティ対策に関するNICTの取り組みについてご講演いただきました。また、OISAで平成16年度にセキュリティー部会が発表した「セキュアなネットワーク構築について」の内容が参考になるとのお話しもいただきました。

（OISA技術研究会URL http://www.oisa.jp/tech/ronbun_history.html）

■第２部 技術研究会発表会

＜大学研究シーズ発表＞

大分大学 情報基盤センター長の吉田和幸氏より「メールサーバのspam対策」と題して、従来のspam対策と問題点やこれからのspam対策についてお話しいただきました。また、大分大学で21週間運用し、届いたメール約700万通でspam対策の有効性を確認した結果、一般に言われているよりもやや高い確率でspamが検出されこと、大学が加害者側になってしまった例などを紹介いただき、IDやパスワードの使いまわしはspam対策の観点からも危険である、とのご意見をいただきました。

吉田　和幸 氏

Python 部会 A

〈技術研究会 部会発表〉

１）Python部会A 「Pythonの今後の展望～機械学習とスクレイピング」

Pythonを利用した機械学習とWebサイトから任意の情報を取得するスクレイピング処理について着目し、ライブラリを用いて手書き数字の判読を行う機械学習プログラムを作成して研究した。Pythonは記述が簡単でライブラリが豊富であり初心者でも取り組みやすい、AI（人工知能）開発、マーケティングやビジネス戦略、RPAによる業務の効率化を行うことも可能であるとの結論。

２）Python部会B 「Pythonの可能性：画像認識を用いた自転車盗難防止アプリ作成」

Pythonで顔認識システムを開発し、同一人物と判定されたときに自転車のロックを外す盗難防止アプリの作成をめざした。判定する画像について、輝度、角度、距離を変える、人以外（サル・人形）などを読み込ませるなどの実験を行った。同一人物の場合でも認証に失敗する事例もあったが、学習データを増やす、明暗の自動調整、認証方法を改善していけば、より精度の高いものが作成できるとの結論。

Python 部会 B

エッジコンピューティング部会

３）エッジコンピューティング部会 「エッジコンピューティングとはなんぞや!?」

エッジコンピューティングとは、現場でできる限りのデータ処理を行い必要なデータのみをクラウドに送って処理をするという考え方。今回は温度管理システムを作成して、エッジコンピューティングとクラウドの比較を行った。研究の結果、二つのシステムの長所・短所が明らかとなり、エッジとクラウドの併用システムも実現できた。今後、５Gが普及するにつれて活用の場が増えていくのではないかとの結論。

各部会とも新しい技術動向や活用例に対して精力的に研究し、実業務への反映や新たな事業展開の可能性を視野に入れた前向きな取り組み姿勢に感慨しました。なお、各部会の発表資料は当協会のホームページにて公開しています。

（OISA技術委員会 http://www.oisa.jp/menu5.html）

（技術委員会）

特別講演会

演題

「あきらめない心 ～東京パラリンピックに向けて～」

日時：2020年1月15日（水）
16：00～17：30

場所：ソレイユ7階アイリスの間

講師：中西 麻耶 氏

プロフィール

- 高校時代にソフトテニスでインターハイ出場。
- 2006年 事故により右膝から下を切断。
- 2007年 障害者陸上に転向した直後、100m、200mで日本記録を樹立。
- 2008年 北京、2012年ロンドン、2016年リオとパラリンピック3大会連続出場
- 2016年 走り幅跳びでアジア記録・日本記録を3度更新
- 2019年「ドバイ世界パラ陸上競技選手権大会」で金メダルを獲得
- 「2020年東京パラリンピック」での金メダル獲得に向けトレーニング中

みなさんこんにちは、中西麻耶と申します。先ほど、広瀬大分県知事から県民表彰をいただきました。大分のみなさんと一緒に東京パラリンピックをめざしたいと思います。今日は、世界パラ陸上選手権で獲得した金メダルを持ってきましたので、懇親会の際にぜひ手に取って一緒に喜びを噛みしめていただけたらと思います。

私の生まれは大阪です。小学4年の時、父が「仕事辞めた、明日から大分県の庄内に行って椎茸作るぞ」と言い出したのです。父は椎茸菌の研究をしていたのですが「俺が開発した種駒は完ぺきなのにクレームが多い、育て方が悪い」と言い張り、会社を休んで湯布院に通いつめた結果、大分に転校となりました。転校先は全校で20人、しかも複式学級で妹と一緒の教室で勉強することになり、何度父親を恨んだかわからない幼少期でした。でも、都会では味わうことのできない、森の中でどうやって遊ぶかを工夫して兄妹3人で遊んでいたのを良く覚えています。

私は屋外スポーツこそスポーツだと思っていたので、中学ではソフトテニス部に入部、どっぷりとハマってしまいました。しかし、幽霊部員が多く、県大会の一回戦敗退校でした。でも私は、全国に近い高校に入学すれば必ずNo. 1になれると思っていて、中学3年の進路調査では、ソフトテニスが強い明豊高校だけを希望していました。しかし、明豊のソフトテニス部はスポーツ推薦だけに限られていたのです。そこで私は、明豊の顧問の先生に電話を掛けたところ、先生は「挾間町に住んじょるけど庄内に良い子がおるとか知らんで。まあ、高校の部活に来てみい」と言ってくれたのです。部活では、上級生とのペアで試合をすることになったのですが、打てば必ず決まるという奇跡の日に当たり、とうとう明豊に入学することができたのです。

高校では、ミスをすると「庄内出身だから」など、どうにもならないことを言われるのが悔しくて、1年でレギュラーを勝ち取りました。2年では、九州大会の団体戦で優勝できたのですが、先輩方に勝たせてもらった印象が強く、3年になったら同じ気持ちを後輩にも感じてほしいと思っていました。しかし、高校最後の県大会では大分商業に負けてしまったのです。試合後に、ひと回りほど離れた見たこともないOGの方から無茶苦茶に怒られ、その時に、かなりのショックと立ち直れないぐらいの心の傷を受けてしまい、いろんなことに責任を感じて大学進学やスポーツの道をあきらめてしまったのです。

高校卒業後は一般社会人として働いていたのですが、同級生が大学で活躍している姿を見ると「なぜ私だけテニスを諦めたんだろう」と、気持ちが揺れていました。その頃、大分で2008年に国体が開かれると知り、神様がくれたチャンスだと思ったのです。国体をめざして努力して勝利するのを後輩たちに見せることで、お互いの関係が変わり、自分の気持ちもスッキリすれば、社会人として仕事を全うできると思ったのです。鉄鋼塗装を経営している親友のお父さんが「ちょうど事務員が居なくなる、国体までの期間、支援するから働きながらテニスに専念してみてはどうか」と声を掛けてくれたおかげで、2006年の春にテニスに復帰しました。自分の父親の元で仕事をしている気持ちで、必死に真面目に仕事をしていたのですが、2006年9月に事故にあってしまうのです。私は体力があったので、事務だけでなく現場の作業を手伝うことがありました。その日も現場にいて、突然遠くの方からゴォーっという何かが迫ってくるような音がして「えっ地震、でも揺れてないなぁ」と思った瞬間、何かに吹き飛ばされて後ろに倒され、砂ぼこりで何にも見えなくなったのです。社長が「麻耶はどこだー」と叫んでいるのが聞こえたので「ここにおるで！」と叫ぼうとした時、心臓が右足についているんじゃないかってくらい血管がドクドクして、もの凄く痛くなりました。砂ぼこりが薄れて少しずつ見えてきた時に目の前にあったのは、5トンの鉄骨が4本ともドミノ倒しの様に倒れて、私の右足が挟まれていた姿でした。「もう見つけないで欲しいな」と、あれほど願った事はなかったです。「でも、どうしたらいいんだろう」と考えて顔を上げた時、社長と目が合い、社長が被っていたヘルメットを放り投げて、「あーー」と叫んだ声がものすごく印象に残っています。

その後、大在の医療センターに運ばれて、患部を見るためにズボンを切ったのですが、開いた瞬間、看護師さんの顔が、化け物を見たかのような「あぁぁぁ」という顔に変わりました。「大げさな」と思って覗いたら、骨が飛び出して、指も血が通ってない色で、「今から大きい病院に転送します」と言われた時は、「あぁ多分、私の足、もう駄目なんだろうな」と思いました。

結局私は、障がい者スポーツの父といわれる中村裕博士が設立した大分中村病院に搬送されました。私は主治医の先生に、「2008年の大分国体に出たい」と話しました。その時、先生は「パラリンピックで活躍している選手もいるので、努力次第で道は開けるかも。でもあなたは21歳の未婚

の女性だから、生身の足と義足では大きな違いがあるだろう。スポーツよりも女性としての人生が長いのだから、良く考えなさい」と言われました。しかし私は、義足ならばソフトテニスの体重移動を支えられると言われ「切断が選手としての近道だ」と思い切断を選んだのです。

私が障がい者になっても走りたいとかテニスをしたいとか話すと、大半の人が「可哀想」って言っていました。一番衝撃だったのは、「自分が障がい者になったことをまだ理解できていないようだから、これから社会に出て色々味わうだろうけど、状況を理解したほうがいいよ」と言われたことです。その時は「何を言ってるんだろう、この人」と思っていたのですが、多くの方から話を聞く度に「あー、こういうことが言いたかったんだな」というのが分かるようになりました。それは、「障がい者はハンディがあるから、夢を叶えるのは難しい。最初から夢をみない、その方が悲しい思いをしなくて幸せだよ」ということです。私は足を失っただけで、中西麻耶という人格や心を失ったわけではありません、2006年９月に切断、2007年８月に義足を履いたのは、こんなことで負けたくないと思ったからです。2008年の北京は、この、なにくそ根性だけで出場できました。

2020年の東京開催が決まってから障がい者も同等に扱おう、という動きが盛んになりました。しかし2008年当時は、赤羽のナショナルトレーニングセンターは文部科学省の建物で、障がい者は厚労省だから利用できなかったのです。おかしいじゃないですか！　何が違うのか知りたくて、私は一人でアメリカに渡りました。そこでは、黒人で初めて金メダリストになった三段跳びのアル・ジョイナーさんにコーチに付いていただきました。しかし当時、日本人でしかも障がい者が、海外に拠点を置いて海外のコーチを付けること、着飾ることや輝くことなどが許されず、ひどいバッシングを受けました。そのような中、月１万円程度でホームステイさせてくれる家を転々として、最後には資金も無くなり、公園で野宿をしながらトレーニングを続けていました。

2012年ロンドン大会に出場した時、日本国籍のない者はコーチ席に入ることができない、と言われ、ジョイナーさんと一緒に舞台に立てない悔しさもあり、ボロボロの結果でした。そのため大会後は、自分の生活も野宿しながらで、バッシングと戦っていく気持ちも伴わず、引退を表明しました。

しかし、2013年にジョイナーさんがフランスから電話をくれたのです。「英語も話せない、頼れる人も居ないのに、一人でアメリカに来る情熱があったのは、何十年も指導した中で、麻耶だけだ」「なぜ自分のやりたいことや夢に背を向けるんだ」「何のために足を切断したか、何のためにこれから生きていくのか、ちゃんと考えろ」「健常者と同じに扱ってくれないとか言うくせに、なぜ健常者の大会に出ないんだ」「健常者の大会に出たら高校生に負けるから、プライドが邪魔して出ないだけじゃないか」と言われました。健常者の大会では高校生でも６m、私は当時５m10cmしか跳べていませんでした。私はハッとして、「やっぱりどこかで、障がい者を盾にして、世の中や勝負から逃げていた」ことに気づかせてもらったのです。それでもう一度、健常者の中でプレーをしようと決めました。その時ジョイナーさんに「日本が嫌いだ、日本はイヤだって言っているけど、麻耶が日本を好きにならなかったら、誰も麻耶のことを好きになってくれないぞ」と言われたのです。

私は、幼少期に大分に転校して来ることができて「すごく良かったなー」と思っていました。だから、まず大分に感謝して、大分から世界に出て行って活躍できることを証明すれば、同じ障がいを持った人たちにも何か考えるきっかけになってもらえるのではないか、と考えたんです。そして2013年から大分に拠点を置いて活躍をするんだと思い立ったのです。

2016年の大分の競技会で５m48cmを跳びました。当時、日本人で５m超えの跳躍なんてできないって言われていたのですが、この時の世界記録は５m70cmぐらい、あと少しで世界記録という跳躍もできるようになりました。

2017年のロンドン世界選手権は、私が一度引退をするきっかけにもなった2012年パラリンピックと同じ競技場でした。この時に、私は５m40cmを跳べる実力を持っているのに、全然跳べないんです。最終跳躍６本目を迎える時まで、「あーやっぱり、ロンドンは自分に合ってないんだな」とか「やっぱり自分は決められない選手だな、メダルとは遠い選手なのかな～」などと考えていました。４位の時点でカウンセリングコーチに駆け寄っていった時、「麻耶、冷静になりなさい。あなたリオの時は４位だけど、2012年ロンドンの時は７位だから、何も失うものないじゃない」って言われたんです。何かがスーッと抜けていくような気がして、なんにも考えずに跳んだら、ジャスト５mを跳ぶっていう奇跡を起こして、銅メダルを獲得することができました。

一度メダル獲得の経験をすると、気持ち的にもすごく変わってきます。ドバイの大会は、最初は２位、３位になって、５本目まで４位でした。４位に入賞すれば、パラリンピック内定は決まっていたのですが、それでもやっぱり、悔しくて。で、最終跳躍６本目、私は逆転優勝を決めました。あの時だけは「今日くらい私がスポットライトを浴びてもいいんじゃないの」って、すごい自信に満ち溢れた跳躍をさせてもらうことができました。2020年東京パラリンピックを、大分県のみなさんと迎えるためには、私は絶対ここで東京内定をもらって帰らないといけない、そういった馬鹿力がすごく湧いた大会になったと思います。

私がこういう話をすると、「中西さんはすごい、強いな～」とか言われるのですが、私は、何も難しいことをやってきたつもりはありません。でも、心の中に夢をもって、夢を叶えるために行動を起こす勇気があったのかもしれません。才能、年齢、性別など関係ありません。ぜひ、行動を起こす勇気を持てる人になってください。また、「バリアフリーの世の中になるためにはどうすれば良いですか」と聞かれることがありますが、雨の日に新聞がビニール袋に入っている、これをしたら相手が喜んでくれる、嬉しいって思ってくれるかな、という相手の立場になって考えてみる時間を作れているかどうかだと思っています。

今年は、東京パラリンピックで世界新記録を出して、今日のメダルよりさらに重みのある金メダルを獲りたい。あと半年、ひたむきに努力を続けていきますので、大分で私を見かけたら、「今日も頑張りよ」って背中を押して、ひろい心で応援をいただけたらと思います。本日は、本当にありがとうございました。　（総務委員会）

第26回 OISA研修の実施
～ご参加ありがとうございました～

今年度の研修はご要望の多かった**セキュリティ**と**リスクマネジメント**に絞り、下記日程にて無事終了いたしましたので、以下の通りご報告いたします。

〈ボードゲームで学ぶサイバーセキュリティ〉

2019年11月14日(木)　19名　10社

最近のサイバーセキュリティ脅威を把握し、その対策を理解するとともに、セキュリティインシデントと対策の相関関係を理解する事を目的としました。

〈プロマネ力としてのリスクマネジメント実践〉

2019年11月26日(火)　22名　13社

プロマネ力といわれるほど重視されているリスクマネジメントの必要性を認識し、リスクの特定、分析、対応計画策定の手順を理解することを目的としました。

研修後のアンケート等も参考にし、これからも会員の皆さまのニーズを反映した研修を企画していきますので、さらなるご意見、ご要望をお待ちしています。

（研修委員会）

第25回 OISAボウリング大会開催

開催日：2019年11月20日(水)　場　所：OBSボウル

ゲーム中の様子

昨年11月20日（水）、OISAボウリング大会がOBSボウルにて、25社36チーム144名の参加を得て、盛大に開催されました。

競技は、1チーム4人で構成され、2ゲームのトータルスコアで団体戦と個人戦が競われました。

競技終了後はアクロスホールに場所を移し、軽食を取りながら表彰式が行われました。表彰式では、上位入賞者の表彰と賞品の授与並びに上位入賞者の記念撮影を行い、和やかな雰囲気で大会を終了しました。

今大会は、団体戦では大銀コンピュータサービスAチームが、九州東芝エンジニアリングAチームを抑えて優勝し、個人戦男子では吉田範久さんがトータルスコア387点で、個人戦女子では緒方幸恵さんがトータルスコア345点で優勝を勝ち取りました。

（イベント委員会）

優勝チーム

準優勝チーム

団体戦の部

順　位	チーム名	総得点
優　勝	大銀コンピュータサービスA	1,373点
準優勝	九州東芝エンジニアリングA	1,341点
3位	オーイーシーA	1,332点
4位	大分ゼロックスA	1,215点
5位	大分ゼロックスB	1,197点
6位	九州東芝エンジニアリングB	1,196点
7位	リコージャパンA	1,180点
8位	オーイーシーB	1,174点
9位	オルゴA	1,157点
10位	コンピュータエンジニアリングA	1,139点

個人戦の部

	氏名	総得点
男子ハイゲーム賞	吉田　範久（オーイーシーA）	387点
女子ハイゲーム賞	緒方　幸恵（オーイーシーB）	345点

第28回 サウンズコンテスト ON THE COMPUTER

日時：2020年1月25日（土）13：30～17：00
会場：iichiko総合文化センター映像小ホール

出場者のみなさん

入賞者のみなさん（中央がグランプリのKamyさん）

審　査　結　果

賞	氏名	年齢	地区	タイトル
グランプリ	Kamy	－	千葉県	水と木と森の精霊たち
フリー曲部門　一般の部　1位	石野　絢也	34	京都府	雲蒸竜変
フリー曲部門　一般の部　2位	吉田　　敬	41	熊本県	追憶の風
フリー曲部門　一般の部　3位	森の猫♪管弦楽団	－	京都府	空の鳥を見よ！
フリー曲部門　学生の部　1位	EiTA	20	神奈川県	ROCK N DOLL
フリー曲部門　学生の部　2位	Bakteria	19	群馬県	Dawn
フリー曲部門　学生の部　3位	BCNO	22	広島県	嘘と告白
トリニータ応援歌部門 最優秀賞	カラスムギ	－	大分市	蒼天決起
審査員特別賞	choma	47	兵庫県	新舞子民謡

音響・生配信をご協力いただいた日本文理大学の皆様

今年で28回目を迎えたサウンズコンテストOn The Computerは、１月25日（土）に大分市のiichiko総合文化センター映像小ホール（地下1Ｆ）で開催されました。

今回の応募曲は110組135曲を数え、その中から厳選なる予選を通過したフリー曲部門22曲、トリニータ応援歌部門３曲の合計25曲で本審査を行いました。

昨年から生配信の方法をUstreamからYouTubeに変更したことで視聴方法が簡単になり、参加できなかった応募者を中心に好評をいただきました。

今回もインターネットにより全国から作品を募ったことで、100曲を超える応募数となり、レベルの高い激戦でした。その厳しい競争を勝ち抜き、みごとグランプリに輝いたのは、千葉県のKamyさんの作品**“水と木と森の精霊たち”**でした。

Kamyさんはインタビューにて、「去年も参加しインタビューされたが、年齢をいじられたので今回は非公表にした」と、コメントし会場の笑いをさそっていました。また「前回の田村審査委員長の講評からヒントを得て曲作りをした」ともコメントしており、その成果が実った素晴らしい楽曲でした。

今回も、大分フットボールクラブの後援による「トリニータ応援歌部門」を実施しました。どの曲も、J1である大分トリニータにふさわしい、今年の活躍を期待する気持ちのこもった楽曲が印象的でした。

会場の様子

その中で最優秀賞に輝いたのは、大分市のカラスムギさんの作品**“蒼天決起”**でした。

この曲は、向こう一年間、大分スポーツ公園総合競技場（昭和電工ドーム）で開催される大分トリニータのホームゲームのBGMとして使われることになっています。

観戦に行かれる方は、試合前に流される音楽にも是非ご注目下さい。

最後に、応募曲の編集、LIVE映像の配信、会場設営等で大変ご苦労をおかけした日本文理大学関係者様、また、今回も多くの後援・協賛を頂きました各社様にも紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

（イベント委員会）

2019年度 第1回・第2回 OISA視察研修旅行

第1回視察先　日程：2019年9月4日（水）～7日（土）　参加：11社17名

オムロン京都太陽株式会社（京都市）

黄桜株式会社　伏水蔵（京都市）

独立行政法人 造幣局（大阪市）

国際フロンティア産業メッセ2019（神戸市）

第2回視察先　日程：2020年1月17日（金）　参加：12社19名

坂本八幡神社（太宰府市）

日本製鉄　八幡製鉄所（北九州市）

第69回別府大分毎日マラソン

社会貢献活動参加

2020年2月2日（日）に第69回別府大分毎日マラソン大会が招待選手13名を含めランナー 4,051名（男子3,827人、女子224人）がエントリーして開催されました。今注目されている厚底靴を履いているランナーも多く好記録の試合となりました。

当協会からの給水ボランティア参加も今年で9年目。過去最高の27社213名の参加で最大規模のボランティア参加団体となり、今回も全15か所の給水ポイントのうち4か所の担当を任せられました。

（総務委員会）